

2023. 8. 21

Report from AKATSUKA PARK

発行：赤塚公園ニリンソウを守る会

●植物モニタリング活動 9/4、9/11、9/18 9:00 ため池公園梅林下集合

●ニリンソウを守る会例会 9/10 秋の活動スタート 10:00 大門ひろば集合

<活動内容>簡単な作業+どんぐりまつりのための準備

*やる気のある人の自発的活動の集まりです。どの活動も、誰でもいつでも参加できます。

<問合せ：赤塚公園サービスセンター03-3938-5715>

猛暑でカサカサの地面 立ち枯れが目立つ



←ため池公園の浮島に生えている松の木に絡むクズは見事にむく犬の姿をしていて、見る者を楽しませてくれているのですが、そのクズの葉が勢いをなくして、一部枯れ葉が見えます。暑さ負けなのでしょうね。



右は赤塚城址本丸の広場ですが、草原を取り囲んでいるソメイヨシノはもう葉が落ち始めました。ソメイヨシノは落葉樹の中では早い時期に紅葉になり葉が落ちるのですが、それにしても早すぎます。

かと思うと、下の左から、これから実を熟させるはずのヨモギが水枯れ、地面を

覆っていたモウセンゴケも枯れてしまいました。いちばん右の写真はお仲間の中嶋さんから寄せられたレポートですが、サツキツツジの植え込みが水枯れで壊滅状態になっています。これはまちなかの街路樹でも見られるのですが、人々の暮らしを取り巻いている環境そのものが後戻りができないほどに大きく変化していることの現れと考えた方がよさそうです。



今まで見たことがない植物も出現

モニタリングではたびたび「見たことのない種」を観察します。と言ってもNHK朝ドラの牧野万太郎さんのように「新種発見!」と騒ぐことはありません。ほとんどは種名が付けられて植物図鑑で検索できるものですから。でも、今まで、ここになかった植物が次々に出てくるということは、これも環境の変化がもたらす、自然の在り方の変化なのかもしれません。



←8月に中嶋さんたちが自主観察活動で見つけた種。お仲間と「クマツヅラ」ではないかと話し合ったそうですが、何回撮影しても鮮明な写真が撮れないという「魔法」にかかって、いまだに種の同定ができません。



右上は8/21に見つけた花。小さな花のトキワハゼ（下の3種の真ん中）に似ていますが、それよりもさらに小さい花。いちばん植物をよく知っている大森さんによれば同じゴマノハグサ科のウリクサ。過去7年間で2回しか観察記録が残されていない花です。また、ヌスビトハギに似ていて微妙に違う花も観察しました（右下）。大森さん曰く、「ヌスビトハギにもいくつもの種類があるから」で、「検討課題」となりました。



この3種、写真が下手なのでとても分かりにくいのですが、ご存じの方は教えてください。



異様に巨大化したメヒシバ

←小穂が細いので確かにメヒシバには違いはないのですが、ひと回り太いオヒシバよりも大柄です。こういう異常発達のメヒシバがあちこちで目立っています。

足元の名も知らぬ草の命をいと惜しんで

猛暑と乾燥にも負けずアスファルトの隙間から命を伸ばす。左からスミレの仲間（春の花なのに最近も咲いたようで、実の殻が付いています）、トキワハゼ、イヌガラシ（花が終わったあと）。

